

## 年表

1945(昭和20)	(8/9) 長崎市に原子爆弾が投下される (8/15) 終戦	1985(昭和60)	・第7回西日本1部大会を長崎市と諫早市で主管開催し、諫早クラブが優勝 ・第40回鳥取国体で親和銀行が準優勝
1946(昭和21)	(7/14) 県体育会(現体育協会)主催で戦後初の軟式野球大会を開催 (8/26) 全日本軟式野球連盟設立	1986(昭和61)	・全国中学校軟式野球大会で相浦中(佐世保)が優勝
1947(昭和22)	(1月) 県軟式野球協会(現連盟)設立 ・第2回全日本軟式野球選手権大会(現天皇賜杯)で佐世保の山領組が全国優勝(6勝)	1988(昭和63)	・一般にも打者ヘルメット着用が義務付けられる ・第10回西日本2部大会で南串野球部が準優勝
1948(昭和23)	(6月) 第1回長崎県民体育祭が長崎市で開催	1994(平成6)	・第16回西日本1部大会で西部ガス長崎が準優勝
1950(昭和25)	・県民体育祭が5市持ち回り開催となる	1995(平成7)	・第50回福島国体で親和銀行が二度目の準優勝
1951(昭和26)	(4月)長崎市営野球場(通称:大橋球場)が竣工 (9月)県下郡市対抗野球(現選手権)大会が始まる	1996(平成8)	・県連盟創立50周年祝賀会を挙げる
1953(昭和28)	・郡市対抗大会が準硬式球使用となる(~S.40年)	1997(平成9)	・県下初の人工芝野球場・長崎ビッグNスタジアムが竣工
1955(昭和30)	・第10回神奈川国体で長崎刑務所が県勢初参加	1998(平成10)	・長崎市営かきどまり野球場が完成 ・第20回西日本1部大会で佐世保クラブが準優勝
1957(昭和32)	・BC級による全日本選抜(現高松宮賜杯)大会が始まる ・郡市対抗大会に前年優勝の推薦枠を設ける	2001(平成13)	・第23回西日本2部大会を長崎、諫早、大村で主管
1959(昭和34)	・長崎市民早朝野球が始まる	2003(平成15)	・第25回西日本1部大会で九電長崎が準優勝
1963(昭和38)	・第14回西日本準硬式大会を長崎県で主管	2005(平成17)	・市町村合併で北高来郡が消滅し、末端支部が15になる
1966(昭和41)	・県選手権大会が14年ぶりに軟式球使用となる	2007(平成19)	・伊藤一長会長が暴漢により銃撃され死去(4/18) ・副会長の八江利春が三代目会長に就任
1969(昭和44)	・デッドボールが軟式球大会にも適用された ・第24回国体軟式野球競技を長崎市と諫早市で主管	2009(平成21)	・第31回西日本1部大会を長崎、諫早、大村で主管
1971(昭和46)	・金属バット使用が全日本軟式野球連盟に認可される	2011(平成23)	・県少年(中学の部)選手権が全試合ビッグN開催となる
1972(昭和47)	・県少年(学童・中学)軟式野球選手権大会が始まる	2021(平成24)	・女子野球チーム『ビクトリア長崎』(小学、中学)を結成
1974(昭和49)	・福江・南松から上五島地区が単独となり11支部になる	2013(平成25)	・国体リハーサルの第35回西日本2部大会を主管開催 ・第68回東京国体で県選抜チームが準優勝
1976(昭和51)	・平戸・松浦・県北の3地区が分離し13支部になる	2014(平成26)	・第31回全日本少年で波佐見中(東彼杵)が優勝 ・第69回長崎がんばらんば国体を主管し県選抜は四位 ・第4回九州都市対抗決勝戦で愛健医院と親和銀行が対戦
1977(昭和52)	・高松宮賜杯第21回全日本2部で上対馬漁協が優勝	2015(平成27)	・第32回全日本少年で日野中(佐世保)が準優勝
1979(昭和54)	・諫早・北高来と、大村・東彼杵が分離し15支部になる ・佐世保野球場が相浦に竣工	2018(平成30)	・長崎県軟式野球連盟公式ホームページを開設 ・第40回西日本1部大会で長崎サニクリーンが準優勝 ・天皇賜杯第73回全日本大会で親和銀行が20年ぶり二度目のベスト4 ・新諫早市営球場が完成 ・第22回西日本選手権大会を主管し親和銀行が準優勝 三菱重工長崎はベスト4
1982(昭和57)	・島原・南高来が分離し、県連盟末端支部が16となる (7/24)長崎大水害で死者295人	2019(令和元)	・第9回九州都市対抗大会で三菱重工長崎が準優勝
1984(昭和59)	・第7回九連会長杯で親和銀行が初優勝 ・高松宮賜杯第28回全日本1部で轟クラブが準優勝		

# 長崎県軟式野球史

【令和元年度版】

発行 2019(令和元)年12月31日